

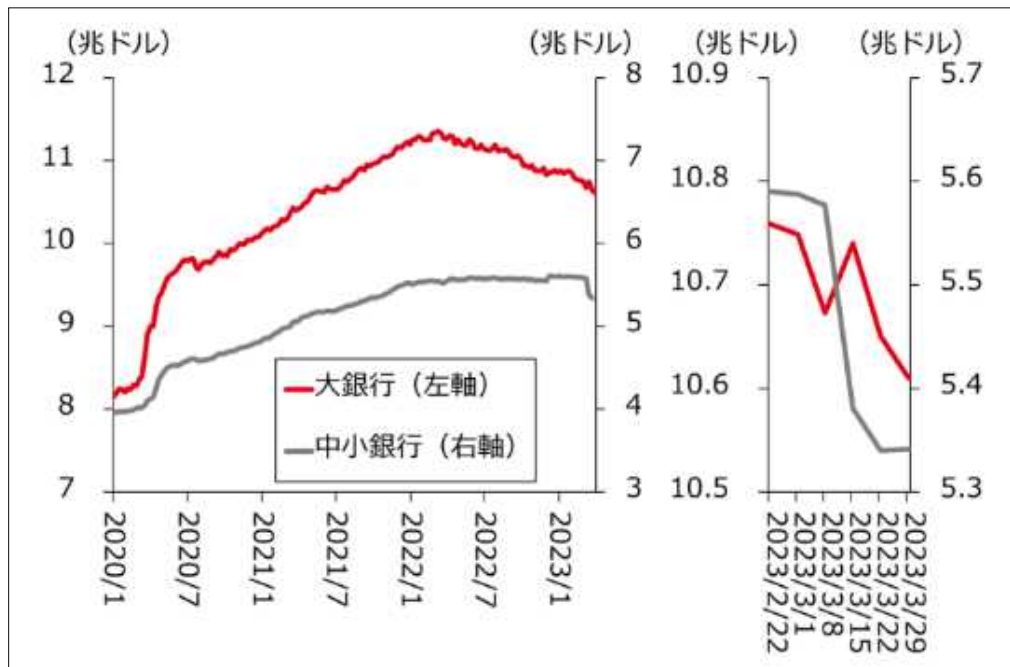
穴吹不動産流通株式会社 広島宮島街道店 市況レポート 〈2023年5月〉

『アメリカ発の金融不安』

いま、世界は金融の危機に直面しています。コロナ禍の発生から約3年が経過し、ロシアのウクライナ侵略からは約1年。そんな中で突如として発生したシリコンバレーバンクとシグネチャーバンクの2行の相次ぐ経営破綻は、リーマンショック以降で最大規模とも報じられその再来かと全世界に不安をもたらしました。アメリカはこれを全力で阻止するため「債務上限の引き上げ」を検討しており連邦議会で可決される見通しですが、そもそもなぜ金融不安がおこってしまうのでしょうか。今回は金融不安についてレポートしました。

■金融不安がささやかれてからの急激な預金残高の推移

【図表1】大手米銀及び中小米銀の預金残高の推移



※季節調整値

出所：米連邦準備制度理事会（FRB）から丸紅経済研究所作成

【アメリカ発の金融不安がおこった原因】

1 つめが、2022 年春以降の急速な金融引き締めによって、銀行のバランスシートに負荷がかかったこととされています。資産と負債の双方に負荷がかか
る中、銀行が財務体質を強化すべく貸出姿勢を過度に厳格化させたことが影響
していると思われます。

2 つめが、銀行不安から金融市場の混乱が生じるケースに加えて、投資ファン
ドやノンバンクが起因してしまう可能性です。ノンバンクが保有する金融資産
の割合は上昇しています。ファンドに資金を拠出する投資家はいつでも解約で
きるケースが多い中、ファンドが保有する資産の流動性は低いので、流動性のミ
スマッチが生じます。ファンドが保有する金融資産の価格が下落した際に、投資
家が我さきにと解約に動き、ある種の取り付け騒ぎがおこることで、金融市場に
大きな打撃を与えやすくなります。

3 つめが、SNS の影響です。シグネチャーバンクの場合、預金していた人は
IT テクノロジーを活用している中小のテック企業やその経営者が多く、シグネ
チャーバンクの経営不安が高まったことで、テック企業に出資していた投資家
らが「預金を引き出したほうがいい」と SNS などで発信しました。するとイン
ターネット上でいっきに拡散し、預金者が一斉に預金を引き出しました。その流
出額は、破綻前日の 9 日だけで計 420 億ドル（約 5.7 兆円）にもなりました。

【債務上限の引き上げとは】

債務上限の引き上げとは、政府が設定した債務（国の借金）の上限を増やすこ
とです。アメリカでは、政府が発行できる国債の総額の上限が法律によって定め
られています（債務上限）。政府が歳出に対して必要な財源が税収だけでは足り
なくなり追加で国債発行で調達する場合、その国債の発行額が債務上限を超え
てしまうと、法律上、新たに国債を発行することができなくなってしまいます。
これが債務上限問題です。債務上限が引き上げられないと、政府は通貨を発行す
るための財源を失い、国債の利払いやその他の政府支出も補えなくなります。こ
の状況は「債務不履行」または「デフォルト」とも呼ばれ、その結果、金融市場
に大きな混乱を引き起こす可能性が発生します。

【これからの世界経済】

6月の初旬には連邦議会で債務上限の引き上げが可決され今回はギリギリ債務不履行（デフォルト）は回避されそうです。しかしアメリカの金融市場に対する信頼は損なわれたとの見方もあります。世界一の経済大国がまさかこのようなことになるとは誰も思っていませんでした。アメリカが風邪をひくと世界も風邪をひきます。リーマンショックで大変な思いをしたあの時代に逆もどり、それ以上のダメージとなる可能性があります。

今回のことで特に心配したことがあります。それはSNSによる取り付け騒ぎです。便利な世の中になった反面、その拡散スピードは昔のうわさ話をはるかに上回ります。正しい情報を入手しそれを自己責任で分析・判断する力を持たなければならないと改めて感じました。

グローバル社会と呼ばれてひさしい現代です。さまざまな情報やモノが繋がっており、どこか1つでもつまづくと立ち行かなくなります。コロナ禍から続くいまの世の中の状況は、私たちにそれをつくづく実感させています。国内の不動産についても大きな商業ビルや大型開発事業だけでなく、マイホームにも影響をおよぼしてきます。大きく騒ぐことはないかも知れませんが、世の中の動向については興味深く関心を持っておいたほうがよさそうですね。（了）

不動産に関するご相談は
『あなぶき不動産流通』にお任せください！

